

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援 はろ				公表日	R8 年 4 月 1日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	個別で学習するスペースや、アートやゲームをするスペースをわけて使用している。	粗大運動をするには狭く、学習室と隣接しているので大きな音が出ないように注意しなくてはならない。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	0	・配置数は満たされているが、時間帯や、子どもの状況によっては職員を増員している。	予約人数や子どもの状態に合わせて、職員を配置しているが、利用者さんのキャンセルや変更があるときの対応がむずかしい。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	・学習、製作、ゲーム、音楽活動など目的に合わせてスペースをわけ、教材などの配置も視覚的にわかりやすいよう配置している。 ・玄関にスロープを付けたり、トイレも車いすで利用可能でバリアフリーにしている。	ラベルを文字や写真で統一しよく使う物は取り出しやすい高さに配置しているが、片付けの流れも写真で示した「片付け手順表」を設置していく。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	・毎日清潔保持を心がけ、業務の開始前と終了時には清掃を行っている。 ・定期的に消毒も行っている。	ゲームや制作の材料を子どもたちが自主的に手に取りやすいような配置にし、片付けやすいよう工夫していく。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	・子どもの体調や精神状態、特性に合わせて個室を利用できるようにしている。	子どもが「安心して戻ってこられる場所」として認識できるよう、環境を一定に保つ		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	3	・問題があるごとに職員間で情報を共有し、目標設定の見直しや振り返りを行っている。	職員が意見を出し合って設定するプロセスを取り入れる。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	・保護者向けの評価表アンケートの結果を、職員全員で目を通し今後の業務改善に向けて話し合いをしている。	年度ごとにアンケート結果と改善状況を比較し、継続的な改善につなげる		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	常に職員間で意見交換を知っている。 ・定期的に、また、必要に応じて会議を行い意見をかわし業務改善につなげている。	対面で言いづらいことは無記名で意見を書いて提出できる方法についても検討		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	3	・第三者による外部評価は今のところできていないが、各機関からの意見やアドバイスを業務に生かしている。	今後は、可能な範囲で第三者による外部評価の導入を検討し、より客観的な視点から業務改善につなげられる体制づくりを進めていきたい。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	・職員全員、毎月一定時間、配信による、研修動画を受講している。 ・外部に出向いて必要な研修も受けることができています。	外部研修の中には時間帯によって受けることができないこともある。必要な研修をどの職員も受けられるように勤務体制などの工夫が必要。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	・子ども一人一人に合わせてプログラムを選び、内容もそれぞれに合わせて対応し、ホームページにて公表している。	保護者が確認できるよう公表すると同時に保護者の意見も聞けるようにしていく		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	0	・毎回の療育の中で子どもと対話し、ニーズ等も把握している。 ・保護者にも聞き取りをし、実際の子どもの様子を見て、課題を分析し、必要に応じて支援計画に取り入れている。	発達段階、行動特性、環境要因など、分析の視点を誰もが分かるように明確にしていく。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	・定期的に会議を行い、職員全員でそれぞれの子どもの支援内容や方向性について話し合うことができています。 ・職員同士が意見を交わし、共通理解のもとより良い方向で支援できるようにしている	会議の中に子どもの意向、保護者の意見、発達状況など明確にする。職員全員が意見を言うようにする。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	・計画を作成する際に職員間で必要な課題や支援について話すことができています。	計画に基づいて支援する中で、振り返りをおこない、改善するべきところがあれば迅速に変えていけるようにする。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	・職員の視点だけでなく、子ども自身の振り返りシートなどを用いて多角的なアセスメントができるようにしている。	得られた情報を整理し、課題や強みをみだせるようにする		

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	・ガイドラインに沿って支援内容を設定し、個々に合わせて具体的な支援内容で書くことを心がけている。 ・支援計画を作成するにあたり、各項目がこどもにあわせて設定し、具体的な支援ができるような内容を心がけている。	本人支援・家族支援・移行支援・地域連携の狙いを皆が分かるように具体化し、子どもに応じて設定していく
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	・職員で話し合いながら、活動プログラムを作っている。 ・子どもの意見も取り入れてプログラムの改善や新しいプログラムを取り入れることなどを会議等で検討している。	子どもの意見も参考に新しいプログラムの開拓を行っているが、必ずしも取り入れることができるとは限らない。こどもの意見にできるだけ添えるよう工夫することが必要。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1	・固定化しないようにプログラムの選択肢を広げられるようにしている。 ・偏ったプログラムの提供になってないかを振り返るために定期的に活動プログラム提供表を作成している。	子どもがやりたいプログラムと提供したいプログラムが一致しないときに、十分に対話し、必要性を伝えて納得した形で取り組めるようにする。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	・子どもの状態に合わせて個別支援と集団活動を組み合わせで行っている。	利用時間によっては、人数や年齢がそろわず集団での活動が難しいときがある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	・支援開始前には支援内容や、ねらい、役割分担について職員間で確認し共有している。	共有した内容を連携できるように具体的な支援内容を提示していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	・支援終了時には1日の振り返りをして、問題点を挙げ今後の支援につなげることを心がけている。	口頭で共有するだけでなく、記録に残していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	・個々の支援内容や業務日誌は必ず記録している。 ・子どもの振り返りシートも活用し、支援の検証、今後の改善につなげている。	会議で共有し、記録をもとに支援計画を見直していく
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	・定期的にモニタリングをおこなうことはできているが、計画の見直しは目標達成時に行っていることが多い。 ・必要に応じて本人や保護者との面談を行い計画の立案と修正を行っている。	必要に応じてモニタリングの回数をもっと増やしていく。目標達成時にはすぐに計画の見直しができるようにする。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	1	・児童発達支援管理責任者が参加し、関係機関と連携を図っている。 ・会議には児童発達支援管理責任者ととも児童指導員も参加することもある。	できるだけ担当の指導員も会議に参加できるように勤務体制を考える
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	地域の保健所や障害福祉機関とは連携できている。	医療機関や保育等の関係機関とも今後必要に応じて連携していきたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1	併行利用先、移行先の事業所と必要に応じて連絡を取り、支援内容等の情報共有を行っている。	保育所やこども園等の情報共有も必要に応じて行っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			・必要に応じて各機関と連携し、子どもの状況に合わせて支援体制を整え情報共有をしながら支援している。	一貫した支援が可能な体制を整えていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)					

	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8	0	・専門的なスーパーバイズや助言を受ける機会はまだない。	外部のスーパーバイズの必要性は感じている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	1	・個別で療育を行っているため、地域の子ども達との交流や活動をする機会が少ない。職員が地域の保育所に向きイベントなどをすることはある。	地域のこども園や保育所との子ども同士が交流できるイベントを考えていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	・必要に応じてLINE、メールや電話で子どもの状況を伝えることができています。 ・定期的な面談以外にも必要に応じて面談し対応している。 送迎時にお話をする事ができる。	対面でお会いすることが少ない保護者に対する対応について考え、できるだけ対面で話す機会を増やす方法を検討していく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	8	・まだ実施できていないが、外部行われる研修等の情報を提供している。	家族支援プログラムや研修等の必要性は感じている。今後実施について検討する。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	2	・契約の際に伝えることができています。 ・毎月、請求書、通所給付費明細書をお渡しし必要事項は契約時に説明している。	契約時だけでなく必要に応じて説明を行っている。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	1	・活動をする際に子どもに今日の活動内容の選択ができるようにしている。 ・子どもの意見を積極的に取り入れるようにしている。 ・保護者とは面談、電話やLINEで意見を聞くことができています。	子どもと保護者の両方に対して、“意向を確認する機会を設けていくことも検討する。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0	・児童発達支援計画にある具体的な支援内容を提示し、説明をおこない、同意を得ている。	同意を得るときに保護者の意見希望に沿っていることを再度確認していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	・保護者からの相談はその都度速やかに応じるようにし、助言、支援を行っている。 ・メールやLINE 電話等で子育て等の悩み相談を受けた場合、必要に応じて面談を行っている。	通信の内容を工夫して誰もが見やすい内容を考えていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	0	・保護者同士で交流する機会を設けたが参加者がなく開催できなかった。 ・今年度も保護者会をする予定(6月、12月)	保護者が参加しやすい日程を考え、活動内容も工夫していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	・こどもや保護者からの苦情に対しては職員全員で共有し対応について話し合い対応している。 ・苦情については速やかに適切に対応にあたり、真摯に受け止め理解を得られるようにしている。	どのような苦情も担当職員だけではなく、職員全員で共有し認識していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	・定期的に通信を発行し、ホームページやラインなどで情報を発信している。	通信の内容を工夫して誰もが見やすい内容を考えていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	・鍵付き書庫でファイルを管理している。個人情報保護の研修を受講し、周知徹底をおこなっている。	日常業務でも留意し、見落としがない職員全体で徹底していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	・言葉による説明だけでなく、紙面を使うなど、複数の方法を用いて一つ的手段に偏らないよう、工夫しながら意思疎通をはかっている。	意思疎通を言葉ではかることが難しい利用者さんに対する方法を複数考え、個々の状況に合わせて、選択できるようにしていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	0	・現在は地域との交流は十分に実施できていない。 ・今後は地域と交流できるイベント等の開催を検討していく予定。 ・ただし個人情報にもかかわるため利用者や、保護者全員の同意が得られなければ難しい。	・今後は地域と交流できるイベント等の開催を検討していく予定。 ・ただし個人情報にもかかわるため利用者や、保護者全員の同意が得られなければ難しい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	・火災・地震など想定した訓練を定期的に行っている。 ・年2回の訓練を行い、子どもたちにも訓練を通して啓発をおこなっている。 ・避難訓練は半年に1回行っている。 ・職員にはマニュアルの周知はできている。	マニュアルの保護者への周知が今後の課題

非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	・避難訓練を行い、その結果見えてきた課題をBCPに反映させている。	利用者全員が避難訓練に参加できるとは限らないので利用者さん全員が参加できるよう日程等を考えていかなければならない。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	・契約時にはそれぞれの病状について確認している。 ・てんかんを持っているこどもについては個別のマニュアルを作っている ・こどもの状況は児童発達支援管理責任者を通じて職員間で共有している	緊急時ファイルを工夫して緊急時に迅速に確認できるようにしていく必要がある。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	・基本的には事業所内で食事やおやつを提供は行っていないが、個人的に状況に応じて持参してくる場合がある。その都度契約時のアセスメントで確認している ・事業所内での食事は無いが子どもの体調に変化があった場合は保護者と連絡を取れるようにしている	個人的に食べ物を持参してくる場合に関しては保護者に確認し、その都度契約時のアセスメントで確認する必要がある。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	・安全計画を作成し訓練をおこなったり、会議で意識付けをおこなっている	・安全計画を作成し訓練を行ったが利用者全員に行われたわけではない。今後さらに回数を重ねて全体に広めていきたい
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	・毎月発行している通信で報告している ・非常時の安全確保に関しては避難訓練実施に際して家族に通知している ・初回の面談、モニタリング等で緊急時の対応について伝えるようにしている	・安全計画を作成し訓練を行ったが利用者全員に行われたわけではない。今後さらに回数を重ねて全体に広めていきたい
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	1	・現時点でヒヤリハット事例は発生していないが、会議等においてでは想定される事例を共有して対応策を考えている	今後考えられる事例を想定し、職員間で共有していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	・オンライン研修を実施している。 ・虐待防止に関する外部研修を受けることができた。 ・職員全員が受講できる研動画視聴研修も取り入れ、研修の受け漏れがないようにしている	外部研修は職員全員が受講できるわけではないので、できるだけ多くの職員が受講できるようにしていく必要がある。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	1	身体拘束を行う場面もなく対象となるこどもがいない。 ・今後必要となる場合は保護者に十分に説明をしたうえで個別支援計画に記載する	今後必要となる場合は保護者に十分に説明をしたうえで個別支援計画に記載する